

〔論文〕

ICT 導入の意義に着目した保育の質向上に関する研究

中津功一朗・玉川 朝子

1 はじめに

近年、延長保育、休日・夜間保育等、社会的ニーズに適った保育の必要性が強く唱えられるようになってきている。加えて、「保育の現場におけるSDGsへの取り組み」に関する実態調査^[1]では、調査に参加した園のうち、50%以上の園が地域貢献や環境保全などSDGsに関係する取り組みを行っていると回答している。そのような新しいニーズに対応するためには、多くの研修や学びの機会が必要であり、かつ保育者の業務負担は大きな問題となっている現状がある。そのような現状の中、子どもたちを健全に育成するためにも保育の質の維持、向上が求められている。

そのため、ICTを活用することで、保育者の業務負担を軽減し、保育の質を向上させることが注目されている^[2]。しかし、有用性ばかりが注目され、すでにICT化が進んでいる分野の課題について、保育分野で検証している研究は少ない。本研究では、保育の質の向上を目的としたICT導入の基礎研究として、業務負担の軽減等の有用性だけでなく、ICT化が保育業界にもたらす課題について、他分野の課題に言及しつつ、考察を行う。

2 幼児教育現場でのICT導入の意義と課題について

本章では、保育者の業務負担という大きな問題を解決し、保育の質を向上させる可能性のあるICT導入について調査し、その有用性と課題について考察する。

2.1 保育ICTの目的

野村総合研究所の調査研究^{[3][4]}では、保育ICTの目的を以下のように分類している。

① 園務効率化・負担軽減

園内の記録業務や事務処理、保護者との連絡業務、登降園管理の自動化等

② 児童の安全確保

センサーやカメラ等による見守り等

③ 公衆衛生向上

体温計とICTツールの連携や児童の体調変化の予兆検知等

④ 保育者のスキル向上・働きやすさの向上

オンライン研修、写真・動画を活用した振り返り、保育者のストレスチェック等

⑤ 児童の学び・教育

ICT教材やオンライン保育、コミュニケーションロボット等

また、この調査研究では、ロボット・AI・ICTなどの最新技術の活用は目的ではなく、保育業務負担の軽減・業務の再構築の手段であることが述べられている。

2.2 技術導入の問題点

ICTを保育に導入することは、様々な業務の負担軽減の面で、上述したような効果があることは言うまでもないが、効果があると同時に問題点もあることを考えていかなければならない。

技術の進化は時に人間の能力の退化にも影響を与えている。ニコラス・G・カーは、著書「オートメーション・バカ-先端技術がわたしたちにしていること」^[5]でテクノロジーによるオートメーション化が進展していく世の中に対して警鐘を鳴らしている。この数十年の間に、オートメーション化が進んだ業界として航空業界を例に、以下のことを挙げている。

「高度にオートメーション化された飛行機を操作する経験によって、自分の手動操縦能力が影響されたと思うか」と尋ねた場合、ほとんどが「スキルが衰えた」と回答し、スキルが向上したと感じているのはごくわずかであったという事例である。つまり、パイロットは自動運転に依存するようになりつつあるため、手動操縦のスキルが衰え、状況認識力が落ちているという事実である。他にも、カナダ北部などの氷雪地帯に住む先住民族イヌイットがGPS機能つきナビゲーション機器を使って狩猟を行ったら、むしろ狩猟能力が低下したなどの事例も挙げられている。保育業務にICTを導入し、オートメーション化する際にも上述したような問題が起こらないように考える必要がある。つまり、ICT化を園の業務の一部をオートメーション化するような認識で考えている人も多いと思うが、ICT化というのは、園の業務の切り離し可能な部分を置き換えるものではない。それぞれの業務に関わる人の役割や知識、仕事全体の流れを再構築し、本来の保育の目的である、子どもの成長のためにできることを考える時間を増やす、つまり、保育の質を向上させるためのものである。

2.3 保育業務におけるICT化の問題点の例

ここでは、2.2で述べたように、ICTを導入する上で考えておかなければならないことを挙げる。

① ICT化への過信

まずは、カーも著書の中で述べているが、機械は不具合なく動くだろうと過信しすぎないことである。過信することで、保育者自身の注意力が下がってしまう恐れがある。例えば、センサー技術による園児の安全確保が技術的にも進んでいるが、あくまで重大事故を防ぐためのものであり、保

育者自身が見守りをすることが前提である。また、見守る過程で、体温や動きだけではなく園児の変化を見抜くこと、個人・集団での事故の予兆に気づくことが出来る保育者としての能力を向上させることを忘れてはいけない。

② 記録業務のデジタル化の問題点

デジタル化によって作成資料の複製・再利用などが容易にできるようになった。同じ表現の使いまわしやインターネットから単純に「コピペ」する方法が多用される可能性がある。実際、養成校の学生のレポートでも、近年コピペのレポートが非常に増えていて、コピペ問題に関する論文^[6]も多い。ただし、子どもの状況を理解し、思い出して振り返る際に、過去の記録やインターネットの情報を参考にするのは、理解を深める点で有益であるので、記録業務のデジタル化自体を否定しているわけではない。

③ 保護者とのコミュニケーションの希薄化

保護者との連絡業務や登降園管理の自動化なども ICT 化し、導入している園も増えてきている。

保護者との連絡業務については、園児の様子を文章等工夫しながら行っている保育者がほとんどだが、テンプレートに従った連絡形式では、これまでのような文章以外での絵などの工夫は少なくなってしまう。手書きの連絡帳の際には、卒園後も大事にとっている保護者も少なくない。連絡帳の役割は、連絡だけでなく、園児の成長記録の思い出としての役割があることも忘れてはいけない。登降園管理については、保育者にとっては出勤の関係上、人数が手薄になる一番忙しい時間帯であり、自動化されることが業務の負担軽減につながることも理解できる。しかし、朝夕の保護者とのコミュニケーションは、園児との1日の関わりにおいては非常に重要なものである。

④ コミュニケーションロボットなどの利用の危険性

今後の社会を考えると、多くの人々がコミュニケーションロボットなどに慣れていくことももちろん必要であるが問題点もある。その一つが、ロボットに認識されるように行為することを子どもに指導することである。例えば、自然な笑顔だと AI は自動で笑顔を認識できないかもしれない。そのため、子どもに対してロボットに認識されるように、口角や目じりを意識的に作った笑顔をするように指導がなされるかもしれない。このように対人間ではなく、対ロボット・AI ということを意識して生活するようになってしまう危険性についても、私たちは予め考えなければならない。

⑤ インターネット利用による想像力の低下

インターネットの利用については、絵本や手遊びなどをすぐに調べる事が可能な環境があることにも問題がある。保育者が保育を実践する上で、現場にいる子どもの様子を想像しながら、絵本を選んだり、手遊びを考えたりするのにインターネットを利用するのは問題ない。しかし、コピペ

と同様、いわゆる「まとめサイト」から拾ってくるだけでは、保育者にとって、重要な今、目の前にいる子どもの育ちに合わせた内容を想像する力が低下してしまう。また安易にスキルが手に入ると考えることは、養成校での学修を軽んじるなどの影響が及ぶことであろう。

①から⑤まで問題点の例を挙げてきたが、決してICT化を批判しているわけではない。先述したように、ICT化する際には、「ICT化のためのICT化」ではなく、「保育の質を高めるための再構築」を考えることが重要であり、その際には、本来の目的や利点、その業務に伴う保育者自身の知識獲得や成長が失われないようにすることが重要である。

2.4 ICT導入における現状調査

本研究では、幼児教育・保育現場でのICT導入の現状について調査するために、現場で働く人222人を対象としたアンケート調査を行った。表－1から表－4には、対象者の性別、勤務先、経験年数、役職の基礎データの分布を示す。

表－1 性別の分布

男性	13
女性	209
全体	222

表－2 勤務先の分布

保育園	75
幼稚園	64
幼保連携型認定こども園	83
全体	222

表－3 経験年数の分布

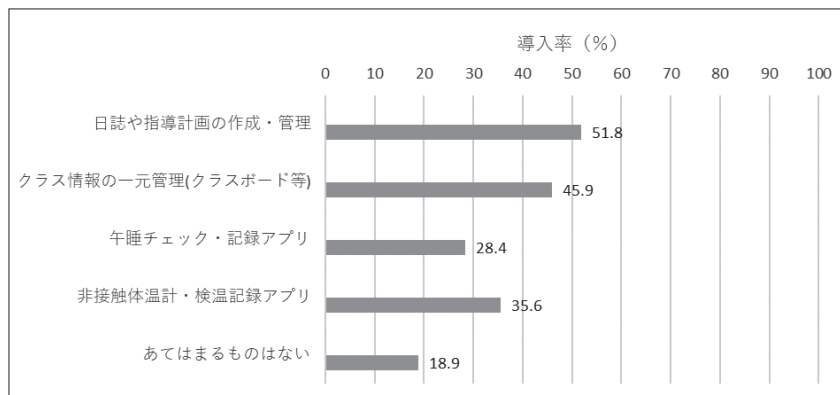
1年未満	11
1～3年	36
4～6年	38
7～9年	36
10年以上	101
全体	222

表－４ 役職の分布

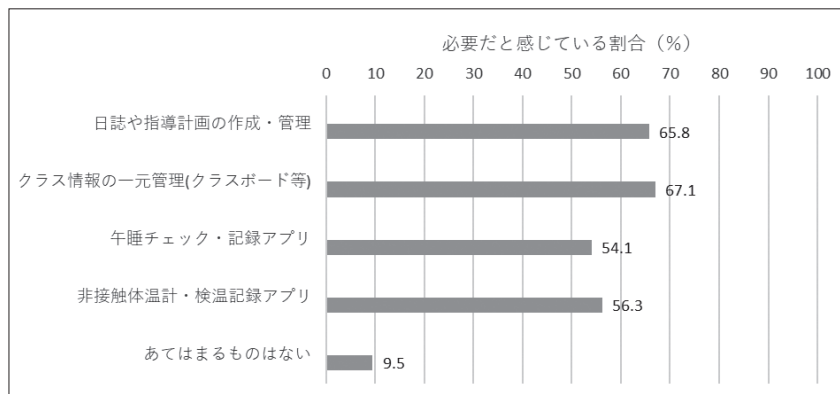
保育士	64
幼稚園教諭	63
保育教諭	53
主任・副主任	25
園長	5
その他	12
全体	222

(１) 業務負担軽減における ICT の導入状況

本研究では、まず、保育現場での業務負担軽減における ICT の導入状況について、「日誌や指導計画の作成・管理」「クラス情報の一元管理（クラスボード等）」「午睡チェック・記録アプリ」「非接触体温計・検温記録アプリ」など代表的なシステムの導入状況を調査した。その結果を図－１に示す。



図－１ 業務負担軽減における ICT の導入率

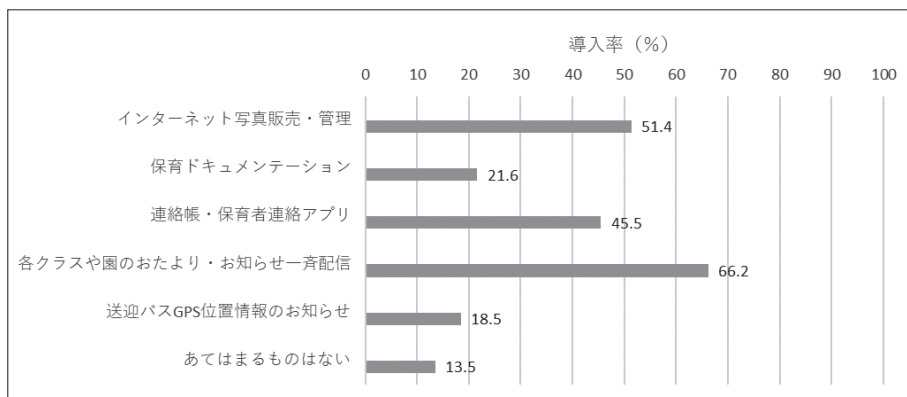


図－２ 業務負担軽減における ICT を必要だと感じている割合

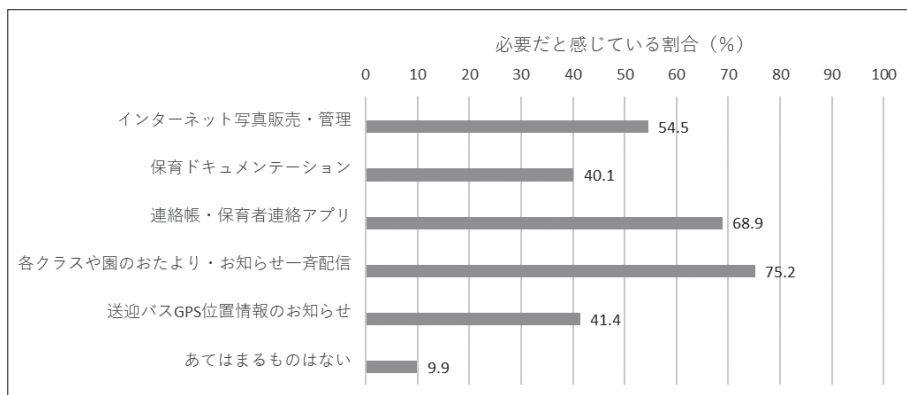
図－２を見ると、すべてのシステムについて、導入率より、必要だと感じている割合が多く、現状よりも導入を求めている人が多いことが分かる。この結果は、2020年の調査時^{〔7〕}よりも増加していることから、ICT 導入に多くの人が求めている可能性が見られる。

（２）保護者とのコミュニケーション支援における ICT の導入状況

保護者とのコミュニケーション支援における ICT の導入状況について、「インターネット写真販売・管理」「保育ドキュメンテーションの配信」「連絡帳・保育者連絡アプリ」「各クラスや園のおたより・お知らせ一斉配信」「送迎バス GPS 位置情報のお知らせ」など代表的なシステムの導入状況を調査した結果を図－３、図－４に示す。



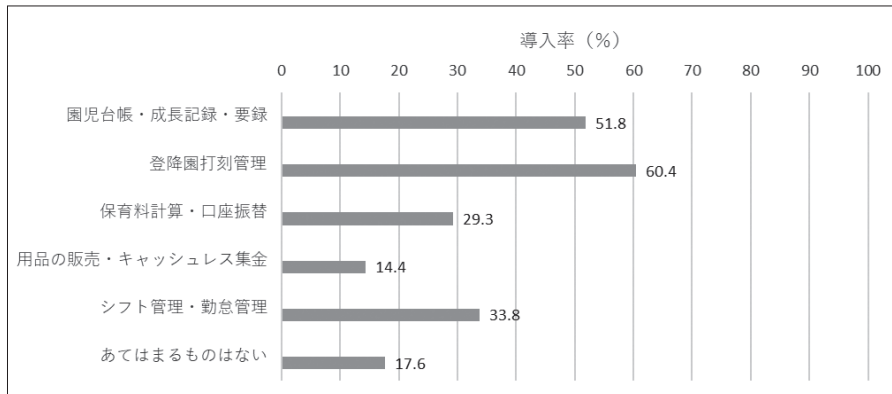
図－３ 保護者とのコミュニケーション支援における ICT の導入率



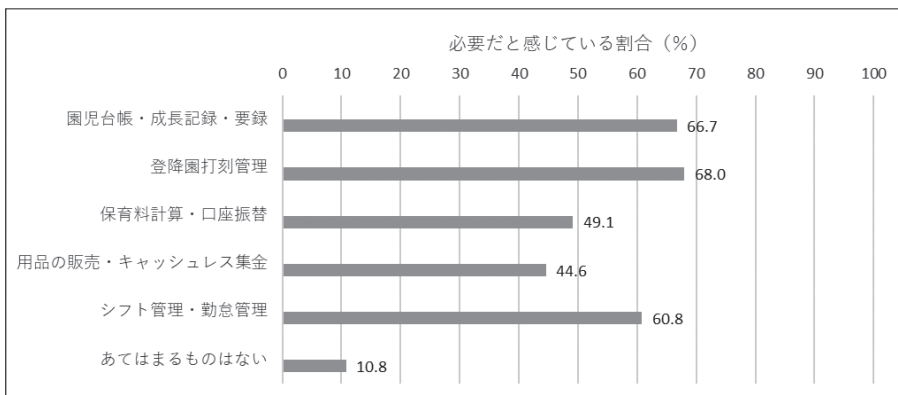
図－４ 保護者とのコミュニケーション支援における ICT を必要だと感じている割合

(3) 園・施設の運営支援における ICT の導入状況

園・施設の運営支援における ICT の導入状況について、「園児台帳・成長記録・要録」「登降園打刻管理」「保育料計算・口座振替」「用品の販売・キャッシュレス集金」「シフト管理・勤怠管理」など代表的なシステムの導入状況を調査した結果を図－5、図－6 に示す。



図－5 園・施設の運営支援における ICT の導入率



図－6 園・施設の運営支援における ICT を必要だと感じている割合

(4) ICT 導入における課題

ICT の課題についての代表的な回答と考察を以下に示す。

なお、回答については、誤字・脱字の訂正等を除き、原文のまま掲載している。

【課題① 設置のための予算】

- ・ 各種 ICT 環境を整えるための費用がかかる。
- ・ 導入しても、機能を増やすたびに費用がかかる。

- ・ 設置スペースが足りない。

【課題② 利用環境】

- ・ Wi-Fi環境が整っていない。
- ・ タブレット、パソコンの台数が足りないので、待ち時間があり、仕事が進まない。
- ・ 利用できるところが限られている。

【課題③ 組織の取り組み】

- ・ 積極的にICTを取り入れようとしていない。
- ・ もっと利用していけば便利だと思うが、昔からの体制を崩さない体質がある。

以上の回答を見ると、そもそもICT導入をする上で、予算の問題は未だに大きな課題となっている。環境が整っているか否かについては、サービスの良し悪しに大きく関わってくるため、大きな問題となる。ICT導入の費用が大きいことで、積極的に導入することが難しくなっている現状がある。

【課題④ アプリケーション】

- ・ アプリケーションを利用しないと確認ができない。
- ・ 記録など、必要事項が変更された場合に対応できない。
- ・ 忙しいときに保護者連絡が確認できず、急にお迎えの時間等が変更されている場合がある。
- ・ アプリケーションを利用できるデバイスを増やしてほしい。スマートウォッチなど。
- ・ 各園に対応したカスタマイズが出来ない。
- ・ アプリケーションで出来ることが現場の業務でしたいこととズレがある。
- ・ スマートフォンで入力していると、遊んでいると勘違いされる場合がある。
- ・ リアルタイムで更新されているので、自分が知っている情報が最新かどうか分からない。

アプリケーションを利用するためのデバイスを持ち歩くことが出来ず、常に確認することが出来ない上、上述したように、デバイスの台数が少ないことなどの理由により利用が限られていることから、本来、リアルタイムに確認できるはずの利点が活用されていないことが分かる。

また、次に多く回答のあった意見として、現場の業務に合わせたカスタマイズが出来ないことが挙げられる。この件については、アナログからデジタルに変化していく上で、仕事のやり方を変更していくことも考えていく必要があることから、どういう理由でカスタマイズを求めているのかについてさらに調査していく必要がある。

デバイスを持ち歩けない理由として挙げられるのが、スマートフォンの利用に関する問題である。スマートフォンを利用し、入力、確認することは便利で、デバイス不足を解決する手段の一つとし

でも考えられるが、プライベートのスマートフォンを利用することは、業務中ということもあり、第三者からの印象や、利用者のマナーの問題など、課題がいくつも挙げられる。

【課題⑤ ICTリテラシーにおける課題】

- ・ ICTに不慣れな職員が多く、利用できる職員の仕事が増える。
- ・ 園に1人以上ICT限定の職員がいてほしい。
- ・ 使いこなせる人がいない。
- ・ 全員が扱えるようにしていく必要がある。
- ・ 目で見ても分かりやすくする方法が必要。職員全員がICTを使いこなせておらず混乱が生じることもあるため、全体で使い方を共有して全職員がスムーズに使えるようにするべき。

ICTリテラシーについては、利用する上で、利用環境の問題と同じように大きな問題である。研修が定期的に行われている施設もあるが、質問したいときに詳しい職員がいない状況は利用が進まない原因ともなりうる。他業界のようにICTに詳しい職員を配置することが出来れば、問題解決にもつながるが、費用の問題でむずかしい。

【課題⑥ セキュリティにおける課題】

- ・ 個人情報に気にする方が多いのでお子さんのプライバシーの線引きが難しい。
- ・ 保護者が、安心できる環境が必要。
- ・ 写真等の保育記録を送信する場合、保護者からの情報流出もある。
- ・ 園児の個人情報漏洩

セキュリティや不具合、エラーの問題についても、専門の職員が配置されているかどうかは、積極的に利用できるかどうかに関わってくる。

【課題⑦ 保護者】

- ・ 家庭の中にはネット環境が整っていない場合もあり、一括利用とならないこと。
- ・ 保護者の中にはスマートフォンを上手く活用出来ない人もいる。
- ・ 保護者が使えない、紙ベースでほしがる方がいるため、結局それを用意する手間が増えて意味がないように感じる。
- ・ サービスの使い方を個人情報等の課題を含めて、保護者に丁寧に説明しなければならない。
- ・ 保護者の登園打刻を忘れた人のチェックや無断欠席が多い気がする。
- ・ 紙で伝えていた時と比較して、チェックしない保護者が増えた。
- ・ 欠席連絡が簡単になったために、送信をし忘れる場合がある。

- ・保護者はスマホに慣れているため、連絡や日々の姿をICTで伝えられるのはいい点だが、見るのを後回しにされてしまい、未開封のままの保護者も多い。
- ・アプリで知らせたいと言われ、なるべくアプリでお知らせするようにしたところ、回数が多くなると必要な連絡を見ない方が増えてしまいました。重要度に応じて使っていきたいが、全員の意見を通すことは難しい。

利用環境やリテラシーにおける課題は、保育者だけの課題ではない。保護者も同様である。保育施設のICT環境の活用を促進していくためには、保護者の協力も必要不可欠である。ただし、保護者の利用環境やリテラシーの課題について、相談を受けるにしても、専門の職員がいないとむずかしいことは言うまでもない。

また、保護者側が利用できる環境にあったとしても、保護者側の意識の問題で保育者の負担が増えている例もある。保護者と気軽にやり取りができるようになったのは良いが、友達のように連絡ツールを使って、質問する例も増えている。回答についても、文字で伝えるために、言葉選びが難しく、明確に伝わらずにトラブルに発展してしまうこともある。

(5) ICT 導入の意義に着目した課題

本研究では、上述したようなICT導入をする上でのリテラシー等の一般的な課題に加えて、ICT導入がもたらす業務の変化に関わる課題についても調査を行った。その結果を以下に示す。

【業務の再構築における課題】

- ・アナログとデジタル、両方の作業が必要になる。
- ・システムを使ってもいいところと、これまでのアナログ的な方法で丁寧に残していくところを区別しないといけない。
- ・温かみを求められ、従来の方式からなかなか切り替わらない。
- ・新しいシステムを導入する事により、新しく覚えなくてはいけない事が増え、保護者に対しても説明しなければならない事が増えて、今現在は逆に仕事が増えたと感じる部分の方が多い。
- ・連絡帳もICT化すると一見楽に感じるが、無限に書き込めるようになってしまうので、手書きより負担になってしまう気がする。
- ・どのような内容をおくるか。
- ・ICTの利用で、保育者、保護者共に情報共有が時短で済むと思う。

ICTを活用するということは、目的を明確にして、従来のやり方を見直したり、変更したりすることが必要である。しかし、本研究の調査の回答を見ると、多くが「ICTの導入＝業務負担軽減」という見方になっていることがわかる。もちろんICT導入は業務負担の軽減につながるが、結果と

して業務負担の軽減につながるものであり、目的ではない。

例えば、「アナログとデジタル、両方の作業が必要になる。」という回答についても、「システムを使ってもいいところと、これまでのアナログ的な方法で丁寧に残していくところを区別しないといけない。」という回答のように、作業ごとに目的を明確にし、アナログ、デジタル、どちらが目的に合うのかを考えなければならない。

また、「新しいシステムを導入する事により、新しく覚えなくてはいけない事が増え、保護者に対しても説明しなければならない事が増えて、今現在は逆に仕事が増えたと感じる部分の方が多い。」についても、同様の回答が非常に多くあった。導入することの意義や利点が保育者にも保護者にも明確に伝わっていないことが重要な課題である。

本研究の2.2、2.3でも述べたように、ICT 導入による能力低下に関する課題としても、現場の保育者の意見として、以下のような課題が挙げられている。

【ICT 依存における課題】

- ・ 頼り過ぎてしまうと確認不足が起こる。命を預かっているため、確認不足は危険。
- ・ ICTに頼りすぎると保護者との関わりが減り、コミュニケーション不足になる。
- ・ ICTに頼りすぎること、実際に自分で行動し自分の目で行うべき確認行為を怠ってしまうのではないか。
- ・ 日誌記録が便利になっているが、定型文での記録が増えている。
- ・ 物や機械ではない、人と人との関わりをもつことが課題と思います。
- ・ 顔を見て話せない、文字だけだと感情が伝わりにくい。
- ・ 保護者との関わりがICTに頼ってしまうと誤解が生まれてしまう可能性がある。捉え方の違いを理解しておかなければならない。
- ・ 保護者の関わりが難しくなっている。伝わりづらさを感じる。楽するのと業務軽減は違う。
- ・ 機械に頼りすぎるとコミュニケーション不足となり、様々な問題が発生する要因となる。そのところの使い分けをする必要がある。人と関わる仕事なので結局は顔を見ながら話すのが一番良いと思っています。
- ・ コミュニケーションは直接話して伝えるのが一番だと思うのでICTに一本化はなかなか難しいと思う。
- ・ 気軽にやり取りできるようにはなるが、対面でのコミュニケーションが減るため保護者との関係が築きにくい。
- ・ ICTを利用すると便利ではあると思うが、教育の場では保護者宛に手書きで挨拶文などの手紙を配布することもある。手間はかかるが、手書きの方が温かみがあるし、何でもかんでもデジタルに頼りすぎるのは良くないと思う。特に保護者とのコミュニケーションを図るには、ICT

を利用することはほとんどなく、電話や対面で会話をする方がお互いの気持ちも伝わるし、信頼関係も深まる。手紙や連絡事項などはデジタルに頼っても良いが、人との関わりまでデジタル化することは不可能。

- ・ 保育の質や保護者とのコミュニケーションに、ICTは関係ないように思う。ICTを利用すべき分野とそうでない分野を混同しないように、保育者の認識をしっかりと把握する。
- ・ 連絡帳など、子どもの様子を記入してくる保護者もいればそうでない保護者もいる。登降園時の互いのコミュニケーションは必要
- ・ 保護者と顔を合わせる機会が格段に減ったのもっと園の中の様子を発信していかないとコミュニケーション不足、信頼関係を築くのが難しい
- ・ ICT化することで保育者の負担は軽減されているが、直接会って話をする機会が減少していき、コミュニケーション不足によるトラブルなどが見られてきた
- ・ ドキュメンテーション等公開していることで安心してしまい、確認していない保護者がいることがある。

これらは、「業務負担の軽減を解決する技術がICTである」という考えについて、現場の保育者が警鐘を鳴らしている課題と言える。あくまでも、目的は、「保育の質を向上させること」であり、導入する際にこれらの課題は同時に考えなければならない。

(6) ICT導入がもたらす効果

これまで課題ばかりを挙げてきたが、保育者が実感するICT導入がもたらす効果についても調査を行った。

【ICT導入の効果】

- ・ 欠席連絡や預かり保育の参加をアプリに入力してもらえると、聞き漏れを防ぐ事が出来る。
- ・ 緊急の連絡に利用することができるのが良い。
- ・ 配信がしっかり届いているかの確認がとれる。
- ・ 配信が手軽になり、クラス便りが頻繁に出せるようになった。
- ・ 子ども一人ひとりに寄り添い、その取り巻く環境である保護者への連絡は、密であり欠かせないところ。ICTは大いに貢献してくれている。
- ・ 子育ての中で子どもを見ながらノートの記入は保護者の負担にもなる。また、保育者も同様に様々な仕事がある中でのノート記入は負担である。日々使い慣れているスマホ等を使う事でそれぞれの負担が減り、思いなども表現しやすく、コミュニケーションも、取りやすくなるのではないかと思う。
- ・ 保護者の相談等も伝えやすいようにする。
- ・ 情報が手軽に共有できる。

- ・ドキュメンテーションを園庭に掲示しているが、忙しく見ていられない保護者の方もいるので、ICTを導入して家で手軽に見られると思う。
- ・保護者が携帯から写真購入できれば、わざわざ園に足を運んでもらわなくてもすむ。
- ・手紙をたたんでおたよりに挟む作業を保育中にするのが大変なのでオンラインで送れるのはありがたい。
- ・園内で撮っている様子の写真等は保護者限定で公開できるようになればいいと思う。
- ・欠席連絡は電話を掛けるよりも手軽で良い。保護者も忙しい中で、スキマ時間に作成できるかつ園側もクラスの一覧で見ることができ把握がしやすい。
- ・ICT化することにより、1人ひとりの延長料金等の計算や、集金の確認等、事務作業が格段に減る。

これらの回答を見ると、事務的な作業の効率化だけでなく、「配信がしっかり届いているかの確認がとれる。」「配信が手軽になり、クラス便りが頻繁に出せるようになった。」「子ども一人ひとりに寄り添い、その取り巻く環境である保護者への連絡は、密であり欠かせないところ。ICTは大いに貢献してくれている。」など、ICTの利点をうまく活用している保育者がいることがわかる。

3 保育にICTを導入する意義

ICTを導入するということは、2.4（6）で現場で働く保育者がICT導入の効果として挙げている例のように、保育の業務が忙しかったり、アナログな方法では難しいなどの理由で、今までしなくてもできなかったことを可能にするということである。

3.1 データ化によるICT導入の意義

具体的な例として、図-7にICT導入によるデータ化の意義を示す。

日々の記録や個人記録をICTにより記録することについて、多くのアンケート結果では、「業務



図-7 ICT導入によるデータ化の意義

が楽になった」、「コピーアンドペーストができる」「どこでも確認することが可能」などの利点が挙げられているが、データ化の本来の価値はそこにはない。図-7に示すように、さまざまな目的に応じた個人記録を相互参照して活用することを可能とする。

例えば、特定の子どもの情報が必要な時、これまで多くの記録ファイルを持ち出し、確認する必要があった。しかし、データ化されることで、必要な時に必要な情報（既往歴などの健康情報や園での生活情報、ポートフォリオ、ドキュメンテーション、家庭の情報など）をさまざまなデジタルファイルから参照し、閲覧することが可能となる。

また、気になる子どもの対応、保護者への対応、アレルギー食、既往歴の対応、対処方法を担任の先生が検討する際、過去の事例を検索によってすぐに参照・確認することが出来る。紙媒体で保存されていても、同様の対応は可能であるが、「いつ」「組」「だれ」などの情報を明確に覚えていなければ、容易に探すことはできない。データとして保存されていることで、同様の事例をキーワードで検索することが出来る。

ただし、現時点では、既存の記録方法と異なる検索しやすい記録方法（キーワードの追加等）が必要となる。しかし、今後AIが発展することで、曖昧なキーワード検索も可能となることから、現時点で活用できなくても、データとして保存しておくことに価値があるとも言える。

3.2 保護者とのコミュニケーション

本研究で調査したアンケートの回答で、保護者とのコミュニケーションにおいては、ICTの導入について多くの賛否がみられた。保育を行う上で、保護者との対面のコミュニケーションは子どもの状況をお互いに認識できる貴重な機会であることは言うまでもない。しかし、保育現場には、表-5に示すように、さまざまな保護者とのコミュニケーションが存在する。まずは、それぞれのコミュニケーションの目的を明確にして、ICTを活用することがいいのかを検討する必要がある。

例えば、園便りやクラス便りについては、情報とともに温かみを伝えたいという意見もある。しかし、アンケートの回答でもあったように、デジタル化することで、印刷の手間や配布作業が減り、頻度を増やしてお便りを配信することが出来るという意見もある。保護者にとっては、どちらも園への信頼につながるのではないだろうか。

また、園への持参物・提出物、災害時の緊急連絡については、以下のような電話等のコミュニケーションでは難しいことも、ICTを活用することで可能となる。

- ・ いつでも一括送信で配信することが出来る。
- ・ 同じ内容を伝えることが出来る。
- ・ 既読・未読のチェックをすることが出来る。
- ・ 保護者が忙しい状況でも、後から確認することが出来る。

一方で、保護者からの情報の聞き取りとして、子どもの健康状態については、登降園時に保護者と交わしたコミュニケーションの中で得られることも多い。しかし、現状では、ICTを活用するこ

とによって、登降園時の情報入力が容易になった分、保護者とのコミュニケーション不足を感じる
と回答している保育者も多い。一方で、保育者の中には、情報入力が容易になった分、保護者との
コミュニケーションがとりやすくなったと回答している保育者もいる。登降園時の保護者とのコミュ
ニケーションの目的を各園で明確にしていけることが重要となる。

3.3 ICT導入の意義

重要なことは、これまでの業務をICTで代替するのではなく、ICTを用いることで、新たな価値
を創出することである。そのためには、「業務負担軽減のためのICT」ではなく、「保育の質向上の
ためのICT」という考え方が重要である。業務を分析し、「保育者だからこそこできること」と「ICT
で代替可能なこと」を明確にする必要がある。

最も重要なことは、保育所の役割^{〔8〕}を果たすために、ICTを活用するという考え方であり、う
まく活用することが出来れば、保育の質向上にもつながる。

表－5 保育者と保護者のコミュニケーション

園からの情報	園便り・クラス便り
	給食便り
	行事案内
	園への持参物・提出物等の連絡
	ドキュメンテーション等の保育内容
	緊急連絡（災害等）
	感染症等への対応
保護者からの情報	登降園時の時刻入力
	登降園時の送迎者の入力
	子どもの健康状態
	家庭の情報・相談

4 おわりに

本研究では、保育の質向上を考える上で、近年、課題となっている業務の負担軽減と関係のある
ICT導入の意義について考察した。保育業務軽減のために新技術を導入し、利用することは重要な
ことであり、推進されるべきことであるが、保育の質の向上を考えると課題もある。

- 1) 園の業務のルーティンワークとなるような部分を単純に切り離し、オートメーション化するこ
とがICT化ではなく、それに関わる人の役割や知識、仕事全体の流れも再構築していかなけれ
ばならない。
- 2) 業務をデジタル化やオートメーション化することで、有益なことは非常に多いが、利用方法や

その業務の目的を軽視してしまうと、保育者自身が考え、想像する機会が失われることにもつながる。

- 3) ICTの目的は、業務負担の軽減ではなく、保育の質向上であり、子どものために新たな価値を創出することである。
- 4) 業務負担軽減は保育の質を向上する上で重要な課題である。ICTは業務改善という点で、一定の負担軽減は可能となるが、すべてを解決するものではない。
- 5) 新技術を導入する上で、新技術の特徴・役割・利点・課題を導入する現場が理解することが重要である。しかし、現在、導入が進んでいるICTについては、本研究の調査内容を見ても、十分理解しているとは言い難い。現場の保育者の視点で考えると、専門の職員がいない中で、日々の業務を行いながら、新技術を自ら学ぶことが非常に難しいことは言うまでもない。今後、AIをはじめ、新たな技術が導入されることを考えると、研修内容の見直しや養成校のカリキュラムの見直し等も必要になる。

付記

本研究は令和元年～4年度JSPS科研費基盤(c)研究「ICT導入の意義に着目した保育実践者の防災コンピテンシー向上に関する研究」(研究代表者 中津功一郎 研究課題番号 JP 19K02328)の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] 株式会社明日香「保育の現場におけるSDGsへの取り組み」に関する実態調査、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000033.000043389.html> (参照 2022-12-01)
- [2] 池本 美香：ニュージーランドの保育におけるICTの活用とわが国への示唆, Japan Research Institute review, 72-89, 2017,
<https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/9942.pdf> (参照 2022-12-01)
- [3] 厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」、
<https://www.mhlw.go.jp/content/000763301.pdf> (参照 2022-12-01)
- [4] 株式会社野村総合研究所「令和2年度子ども子育て推進支援調査研究事業 ロボット・AI・ICT等を活用した保育者の業務負担軽減・業務の再構築に関する調査研究」、
https://www.nri.com/jp/knowledge/report/1st/2021/mcs/social_security/0330_3 (参照 2022-12-01)
- [5] ニコラス・G・カー：オートメーション・バカー先端技術がわたしたちにしていること、青土社、2014
- [6] 萩原 弘子：コピペ・レポート問題から考える大学教育：今後の議論に向けて、Research Integrity Reports 3, 3-32, 2018,
https://omu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=7020&file_id=19&file_no=1
(参照 2022-12-01)

- [7] 中津 功一郎：幼児教育・保育現場への ICT 導入の現状と課題，大阪城南女子短期大学研究紀要 = Bulletin of the Osaka Jonan Women's Junior College 55, 85-98, 2020、
https://jonan.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1017&file_id=22&file_no=1
(参照 2022-12-01)
- [8] 厚生労働省「保育所保育指針」、
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>
(参照 2022-12-01)

(なかつ こういちろう：教授)

(たまがわ ともこ：講師)

